ハンドマイク街頭演説原稿例　「公平な和平」実現を

二〇二五年二月二十六日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　今年の夏には参議院選挙が行われます。昨年の衆議院総選挙で自民・公明の与党が過半数に届かなかったことで、私たちの願いが実現するチャンスが生まれました。今度は参議院でも与党を少数に追い込み、願い実現のチャンスをさらに大きくするために、日本共産党を大きくすることがどうしても必要です。日本共産党は政党を選ぶ比例代表で、はたやま和也・元衆議院議員を含む５議席の獲得、定数４の埼玉選挙区で現職の伊藤岳参議院議員の再選をかちとるため、全力で頑張ります。日本共産党にみなさんのお力をお貸しくださいますよう、よろしくお願いします。

　さてみなさん、ロシアによるウクライナ侵略が始まって三年となる二月二十四日、国連総会の特別会合が開かれ、ロシア軍の即時で完全な撤退、戦闘の停止とウクライナでの戦争の平和的解決などを求めた決議案が、日本など九十三カ国の賛成多数で採択されました。たいへん重要な決議ですが、同時に極めて重大な事態も発生しました。過去４回、同様の決議に賛成してきたアメリカが態度を変え、ロシアや北朝鮮とともに反対に回りました。

　この間、アメリカのトランプ政権は、国連憲章と国際法、そしてこれまでの国連総会決議にもとづく、公正な和平とは違う方向に世界を動かそうとしています。

　一つは、ウクライナのゼレンスキー政権がこの戦争を起こした、という趣旨の発言です。戦争に至る過程で、ロシアとともに欧米の側の対応にも問題点があったことは、私たちもこれまで指摘してきました。しかしながら、侵略戦争を始めたのがロシアであることは、誰もが認める事実です。トランプ大統領の発言は、事実とまったく異なるものです。

　もう一つは、ウクライナの主権と領土の回復は現実的でないといった発言が、トランプ政権から繰り返し出されていることです。国連憲章にもとづく国際秩序を壊すような「不公正な和平」を、ウクライナの頭越しに押しつけることがあってはなりません。

　日本共産党は昨年から、（１）ウクライナでの流血を終わらせるため、和平協議に道を開くあらゆる努力を行うこと（２）その和平は、国連憲章、国際法、ロシアの侵略を非難し即時撤退を求める国連総会決議にもとづく「公正な和平」であるべきこと（３）かりに停戦が実現したとして、「公正な和平」の実現には一定の時間や段階が必要となるかもしれないが、「公正な和平」という目的をあいまいにしてはならないこと―この３点を国際社会によびかけてきました。私たちはこの３点を改めて呼び掛けます。

　日本政府は国連総会決議に賛成しました。そうであれば、石破政権は国連憲章、国際法にもとづく「公正な和平」の実現のために、アメリカのトランプ政権にも、国連総会決定の立場で強く働きかけるべきです。事実とまったく異なるトランプ大統領らの発言は、間違っていると、きちんと物を言うべきだと、日本共産党は強く求めます。

　日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をこの機会にぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）